

令和6年度 文化財防災訓練等実施状況報告

都道府県名

香川県

行 事 名 称	笠島まち並保存地区火災防ぎょ訓練（文化財防火デー）
実施期間・日時	令和7年1月26日（日）9：00～10：00
実 施 場 所	丸亀市本島町笠島
主 催 者	丸亀市消防本部、丸亀市教育委員会

■実施内容

訓練の想定

午前9時00分頃、笠島まち並保存地区南側の竹やぶから出火しているのを近隣に住む住民が発見。直ちに119番通報後、消火器で初期消火を試みるが海からの強風により延焼範囲が拡大。連絡を受けた地元消防団第7分団は直ちに出勤し消火活動及び炎症防止措置を実施。後着した北消防署隊により現地に現場指揮本部が設置され、消防団と共に火災防ぎょ活動を実施する。

訓練の内容

地区住民による初期消火（消火器）、消防本部・消防団による放水訓練等を実施

参加者及び役割分担

丸亀市消防本部（10名）全体統括、講評
 丸亀市北消防署（5名）放水訓練
 丸亀市消防第7分団（17名）
 丸亀市教育委員会文化財保存活用課（5名）全体統括、講評
 地域住民（6名）通報者、初期消火

特に工夫した点

令和2年度に策定した保存地区の防災計画に基づき防災施設を整備した。今回、新たに整備した防火水槽から可搬ポンプで水を取りホースを伸ばして消火活動を行うなど、実践を想定した消火訓練を行うことができた。併せて、建物が密集した場所において延焼防止に有効な水幕ホースによる消火活動を行った。地区住民も消火活動や緊急連絡や住民の安否確認など火災発生時に取るべき行動を確認することができた。笠島地区では重要建造物が数多く残っており、火災時には被害範囲を極力少なくすると同時にできるだけ文化財を保護する形での消火活動が重要となる。文化財部局と消防署・地元消防団が連携を密に取りながら消火活動の迅速化や現場に則した形での消火活動を行うことが重要であると感じた。

問題点・課題

現在、丸亀市には127件の文化財があり、順次、保存・整備・活用が図られている。長い年月の中で大切に守られてきた文化財の多くは木造の建造物であるため、火災等の災害があった場合大きな被害が想定される。重要な文化財を永く後世に伝えていくことは現代に生きる私たちの責務であり、常日頃から文化財の適切な管理と併せて防災施設の定期的な点検および必要な物資を確保しておくことが重要であると思われる。

その他

文化財火災防ぎょ訓練の実施は火災を未然に防ぐという予防的な観点と住民や文化財関係者の文化財愛護意識の高揚を図る良い機会となっている。地区住民の生活状況や空き家状況などをあらかじめ情報共有しておくことが、いざという時のスムーズな救助活動や消火活動につながると思われる。

訓練風景

